

## 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」報告について

- 「津波防災地域づくり法」に基づき、都道府県が最大クラスの津波に関する津波浸水想定を行うにあたり、検討が進んでいない日本海側の最大クラスの津波断層モデルの設定を支援するため、国交省、内閣府、文科省において学識者による検討会を設置し検討を実施（平成25年1月から）。
- 歴史資料や、津波痕跡高、津波堆積物調査を収集・整理するとともに、「産業技術総合研究所、海洋研究開発機構等による構造探査データ」及び「地震発生メカニズム等に関する最新の科学的知見」などを踏まえ、日本海側における津波の発生要因となる最大クラスの津波断層モデル（海底断層の位置、長さ、幅、傾斜角、すべり量等）を設定（60断層）。
- 今回設定した断層による津波規模を把握するため、各津波断層モデルに大すべり域の場所を変え、計253ケースの津波高の概略計算を実施（日本海側（北海道知床半島から長崎県平戸市まで）の沿岸を50mメッシュに分割して沿岸の津波高を算出）。
- また、概略計算結果を踏まえ、道府県内の市町村の平均津波高が最大となる断層を特定（32断層）。

## ＜津波概略計算結果＞

## 居住地の多い平地の沿岸での津波の高さ

- ・日本海沿岸東部（北海道から福井）：高いところで概ね5～12m
  - ・日本海沿岸西部（京都から九州北部）：高いところでも概ね3～4m
- （全海岸線での津波の高さ：北海道や東北の一部等で15m以上）

## ～日本海で発生する津波の特徴～

- ・断層が浅く高角であるため地震の規模に比べて津波が高い
- ・断層が陸地に近いため津波到達までの時間が短い（一部の地域では地震発生から2～3分以内に津波が到達）
- ・日本海の海底地形の影響で東北沖での津波が中国地方で高くなる場合がある

※なお、今後、当該検討結果を参考に、日本海側の道府県が、津波防災地域づくり法に基づき津波浸水想定を実施。